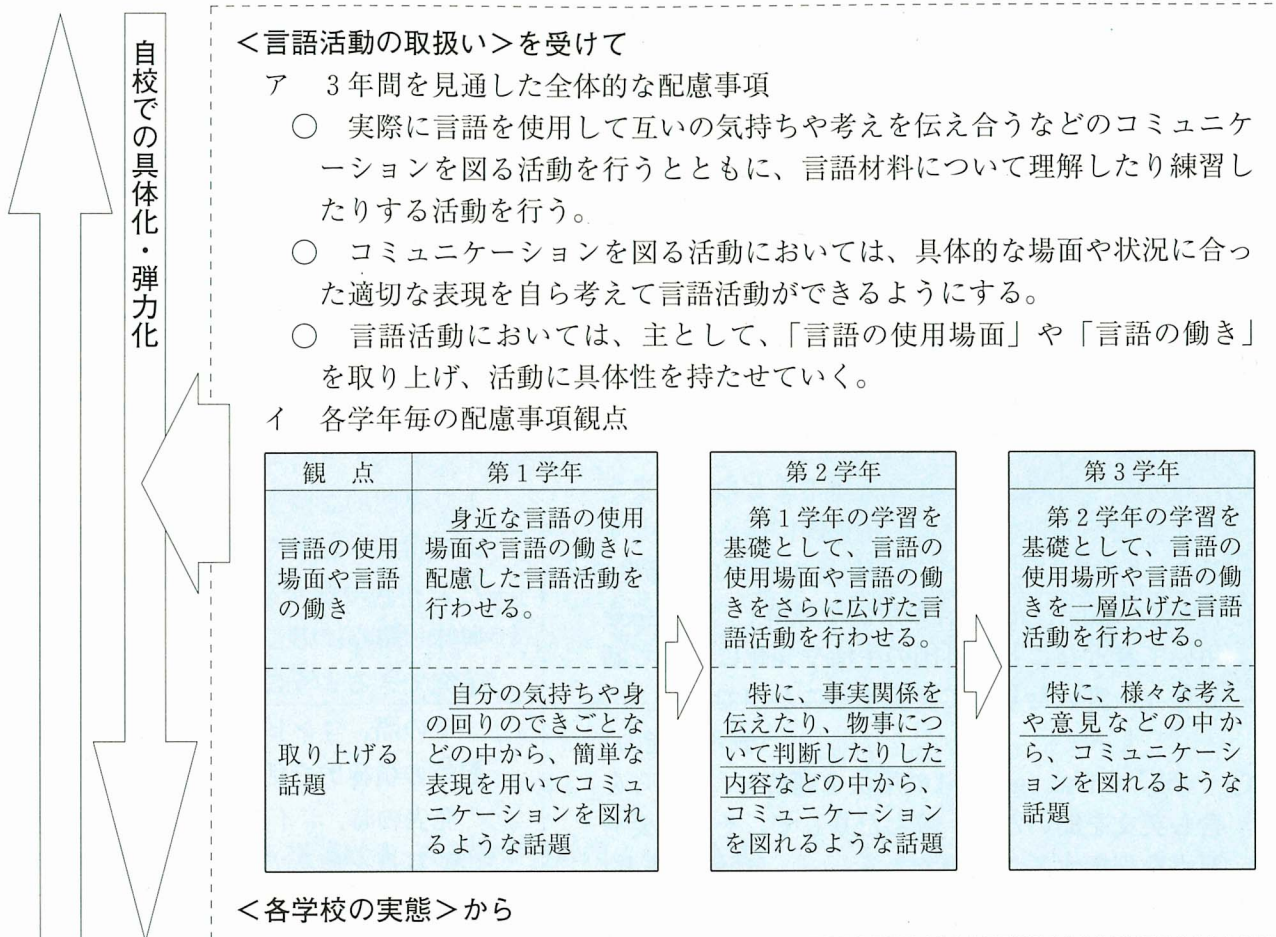


3 実践的コミュニケーション能力の育成に重点をおいた授業

(1) 本校における言語活動の指導事項の具体化、弾力化 (★)

4 領域の言語活動の指導事項 (3 学年間を通して一括して示す) : 学習指導要領



- 生徒の学習の習熟の程度を見定めて、必要な内容を3学年のうちに繰り返し指導するなど、様々な指導上の工夫を行う。
- 長期的な計画のもと、学習状況を把握し学年に縛られない弾力的な指導を行う。

(2) 授業の充実のための視点 ～聞くことや話すことを中心として～

- 各学年とも、音声によるコミュニケーション能力の育成を一層重視し、特に聞くこと及び話すことの言語活動に重点をおいて指導する。(★)
- 「聞くこと」では、単に英語を聞いて文の表面的な意味を理解するだけでなく、話し手の意向などを理解できることを重視する。(★)
- 「話すこと」では、与えられた文を機械的に繰り返すことができるだけでなく、自分の考えなどを話すことを重視する。(★)
- 実際に言語を使用してコミュニケーションを図る活動 (use) と言語材料についての理解や練習を行う活動 (usage) とのバランスに配慮しながら、それらの確実な定着を図る。
- 言語活動の指導の指導では、一つの指導事項を取り上げて行うばかりでなく、他の領域の指導事項と組み合わせて、豊かな表現を目指し、指導の効果を上げることができるようになる。
(例：聞いたことをもとにした書く活動、読んだことをもとにした話す活動)
- ALT等とのT・Tの工夫により、授業内外の言語の使用場面の工夫を図る。(★)
- 一人一人の英語の表現や発想のよさを生かした個に応じた指導を工夫する。(★)